



国民の森林・国有林

中部森林管理局

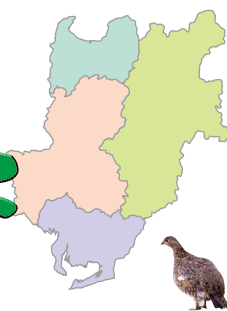
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

http://rinya.maff.go.jp/chubu/

広報

# 中部の森林



平成23年度日本型フォレスター育成研修  
准フォレスター研修開講記念式典

開講記念式典で挨拶をする城土局長



2011・国際森林年

## 森林・林業の再生を担う人材の育成

# 「准フォレスター研修」がスタート

(P2~3に関連記事)

主な項目	○「准フォレスター研修」が始まる .....	P2
	○平成23年度流域管理調整官会議の開催 .....	P2~3
	○シリーズ現場最前線 .....	P5
	○風景紀行 .....	P6



「森林技術センター」平成二十三年七月四日から下呂市の森林技術センターを拠点に「准フォレストスター研修」がスタートしました。この研修の開始にあたり、下呂市の市民会館において岐阜県森林文化アカデミー学長、下呂市長の他、多数の来賓を迎え開講記念式典が執り行われました。

式典では、当局職員や管内の富山・長野・岐阜・愛知の県職員をはじめ、京都・石川・福井・静岡・三重の各府県の職員ら総勢二十九名の研修生を前に、城土局長から森林・林業の再生に向けた一連の動きを踏まえ、市町村森林整備計画の策定等の支援業務を行う「准フォレストスター」への期待と激励の挨拶がありました。



熱心に受講する研修生

式典終了後、早速研修カリキュラムに基づき、「森林・林業再生プラン」の概要、「准フォレストスター」の役割、「市町村森林整備計画」の概要といった講義に入り、研修生は真剣な眼差しで受講していました。

森林技術センターでは、今般研修がスタートした第一グループから第三グループの研修が終了する十一月まで、多くの研修生を受け入れることとなります。この研修が「森林・林業再生プラン」の着実な推進にとって必要な人材の育成に資することを肝に銘じ、関係機関と連携し研修を進めていくこととしています。

### 平成二十三年度 流域管理調整官会議の開催

【計画課】中部森林管理局では、六月二十一日～二十二日、長野県上松町において平成二十三年度流域管理調整官会議を開催しました。

今年度の会議では、低コスト・高効率作業システム（森林作業道等の作設計針を踏まえた路網整備）等に関する理解を深めるための現地研修を行うとともに、県及び林野庁の担当者と流域管理に関する情報交換・意見交換を行いました。

国有林野の管理経営にあたっては、流域を基本単位として、森林・林業・木材産業の関係者を含む幅広い関係者が連携し、民有林・国有林を通じた上下流の協



田邊氏による森林作業道作設の注意事項の説明

力により森林整備や国産材の安定供給等に取り組み森林の流域管理システムのもとで、流域の課題やニーズの確かな把握、森林計画等の策定のための意見調整、林業事業者の育成等に民有林関係者等と連携して対応する必要があります。

このため、中部森林管理局においては、管内の十四流域を対象として、平成二十二年度からの三カ年間にそれぞれの流域で積極的に取り組む行動計画「第四次国有林野事業流域管理推進アクションプログラム」をとりまとめ、幅広い関係者との連携による民有林・国有林を通じた様々な取組を推進しています。

民有林と国有林が連携して進める流域管理システム推進のためには、国と県の密接な連携が不可欠であるため、今回の会議には富山県・長野県・岐阜県・愛知県県の担当者の皆さんにも出席いただき、流域管理に関する意見・情報の交換を行いました。

低コスト・高効率作業システムに関する

る現地研修では、木曾森林管理署小川入国有林において、外部講師の森杜産業(株)田邊由喜男氏から、流水の処理方法、森林作業道作設にあたっての注意事項などを学びました。

流域管理に関する情報交換では、林野庁計画課流域管理班担当課長補佐から「原木の安定供給を核とした流域管理システムの推進」、林野庁経営企画課流域管理指導官から「国有林における流域管理システムの推進」について林野庁の取り組みについての説明があり、各署等の流域管理調整官からは「森林共同施業団地の設定に向けた取組状況」の報告がありました。また、各県の担当者から「集約化に向けた民有林の取組状況」を情報提供していただきました。

意見交換の後、それぞれの流域において引き続き連携していくことを確認し、二日間の会議を終了しました。

なお、今後の森林・林業再生に向け、



流域管理に関し、県の担当者と意見交換

国有林に期待される役割の一つとして、「国有林職員がフォレストラーとして市町村の民有林行政を支援すること」等が求められており、林野庁では森林・林業に関する技術者等を計画的に育成することとしています。

具体的には、国有林のフィールド及び技術力を活用し、新たに市町村森林整備計画の策定等、市町村の林務行政を支援する准フォレストラーや林業専用道技術者の育成を図るため、全国七ブロックにおいて研修が実施されることになっていきます。各署等の流域管理調整官等は、七月から始まるこの准フォレストラー研修への参加を予定しています。

### 「2023年度ふるさと長野県」長野県植樹祭開催

〔指導普及課〕六月十一日（土）、長野県中部森林管理局、駒ヶ根市、宮田村などが主催する、平成二十三年度ふるさと森づくり県民の集い・第六十二回長野県植樹祭が「始めよう 命つながる 森づくり」をテーマに塩尻市高ボッチ高原で開催されました。

当日は、時折の小雨と霧が立ちこめる中、地元地域のみどりの少年団をはじめ、林業関係者、一般参加者など約千四百名が参加し、植樹会場である高ボッチ高原の市有林で植樹作業に汗を流しました。今回の植樹祭は、千百本のミスナラ及



ミスナラを植栽する城土局長と下堂中信署長

び防風効果を目的としたトウヒの植栽を行い、植栽木にはニホンジカ等からの被害を防ぐための防護ネットの設置も併せて行いました。

また、会場周辺では森林整備に関するパネル展示、郷土物産品の販売ブースも出展されており、地元の中信署からも森林の働きについてPRしたパネル等を示し、植樹作業後に立ち寄った県知事ほか植樹祭参加者らが展示品を前に署員の説明に耳を傾けていました。

### 「親子森林探検隊」を開催

〔指導普及課〕関東、甲信越地方が一斉に梅雨明けとなった七月九日（土）、小

中学生の親子を対象に、自然散策・登山を通じて森林の役割等について理解を深めてもらうことを目的とした「親子森林探検隊」を下高井郡木島平村のカヤの平自然休養林で開催し、七家族二十二名が参加しました。

カヤの平総合案内所に到着後、自然再生企画官より主催者挨拶と北信署木島平森林官から自然休養林の概要等について説明し、総合案内所から北ドブ湿原までの散策コースと高標山（こっひょうざん）への登山コースに分かれ実施しました。

散策コースでは湿原までの散策路で、自然にないものを探し当てるゲームやブナの大径木の観察などを行い、森林インストラクターから森林の役割等の話に参加者は熱心に聞き入っていました。

また、湿原ではニッコウキスゲやヒオウギアヤメなどの花が彩りを添え、湿原に吹く爽やかな風の中、自然散策を満喫していました。



木の葉を手説明するインストラクター



参加者で記念撮影

登山コースは、高標山までの約二時間の道のりを、カラマツ及びブナ林を見ながら、途中、蚊の発生などもあり苦労しましたが全員元気に登頂することができました。奥志賀高原や岩菅山のほか、眼下には中野市街地や遠く善光寺平を望むことができ、素晴らしい眺望に参加者は心地よく汗を拭いていました。

また、会場となったカヤノ平高原では牛の放牧も見られ、豊かな自然に恵まれたカヤの平でのひとときを終え帰路に着きました。